

過去10年間における教職員の健診受診率の推移

齊藤 郁夫*

保健管理センターの業務の一領域として教職員の健康診断（健診）がある。今回は1999年から2008年までの健診受診率の推移について検討した。

対象と方法

毎年の慶應義塾大学保健管理センター年報¹⁾から、1999年から2008年までの教職員の健診受診率の推移について検討した。

成 績

慶應義塾大学教職員全体の健診受診率は1999年の76%から上昇し、2006年には92.5%に到達したが、それ以後、微減傾向にあった（図1）。その間、健診の対象者数は4690人から5788人と1000人余り増加し、健診の受診者数は約1600人増加した（表1）。2004年4月から開始された新臨床研修制度に伴い、医学部の研修医が教員として加わったこと、後期研修医が教員として

正式に雇用されたこと、日吉にメディアデザイン・マネジメント、メディアデザインの2大学院ができたことなどと関係している。

教職員別にみると職員の健診受診率は一貫して高く、職員では1999年から85%以上で推移したが、教員では1999年の63%から増加していく、2006年には85%を超えたが、その後微減している（表1）。

男女別にみると女性の健診受診率は一貫して高く、女性では1999年から85%以上で推移したが、男性では1999年の67.2%から増加していく、2005年には85%を超えた（図2）。

学部教員別について2001年以前の成績は不明であるが、2002年の67.1%から2008年まで増加し、83.9%の健診受診率となった。中でも医学部教員は2002年の68.9%から2003年には91.7%に増加し、それ以後も高い健診受診率を維持した（表2）。

一貫教育校教職員別について2000年以前の成

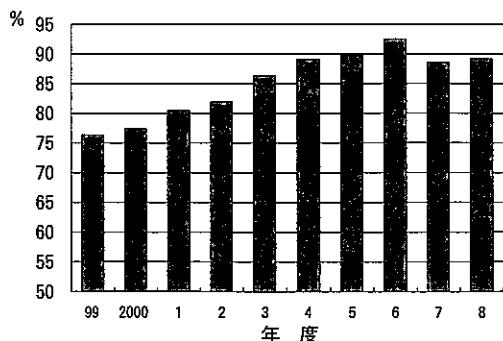


図1. 教職員の健診受診率の推移

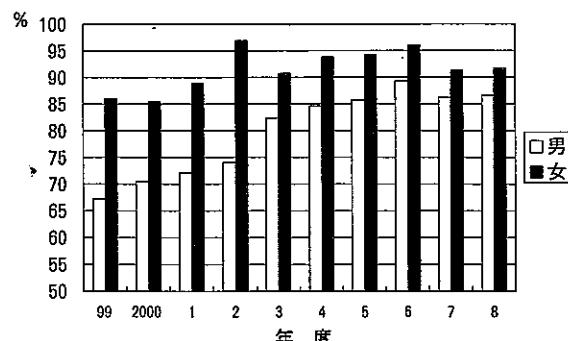


図2. 教職員の男女別健診受診率の推移

* 慶應義塾大学保健管理センター

過去10年間における教職員の健診受診率の推移

表1 教職員別健診対象者数と受診率の推移

年 度	教 員 対象者数(n)	受 診 率(%)	職 員 対象者数(n)	受 診 率(%)	教職員計 対象者数(n)	受 診 率(%)
1999	1930	63	2760	85.1	4690	76
2000	1971	65.8	2757	85.9	4728	77.5
2001	2023	68.1	2777	89.2	4800	80.3
2002	2066	70.7	2732	90.3	4798	81.9
2003	2085	80.4	2747	91	4832	86.5
2004	2595	81.2	2725	96.1	5320	88.9
2005	2614	83	2660	96.3	5274	89.7
2006	2462	87.3	2647	97.3	5109	92.5
2007	2588	82.9	2942	93.8	5530	88.7
2008	2751	84	3037	93.7	5788	89.1

表2 学部別教員の健診受診率の推移 (%)

年 度	文学部	経済学部	法学部	商学部	医学部	理工学部	総合政策 学 部	環境情報 学 部	看護医療 学 部	薬学部	計
2002	64.6	66.7	60.5	59.8	68.9	73.8	60	47	84.4		67.1
2003	72.9	67.4	60.8	65.8	91.7	76.4	67.8	61.1	77.1		77.8
2004	73.5	68.9	62.6	70.5	82.5	81.1	60.3	54.5	83.3		76.4
2005	67.1	72	67.9	67.3	91.4	80.6	53.3	59.7	78.3		79.6
2006	57.1	37.6	33	38.7	95.8	81.5	68.3	69.6	78.3		75.3
2007	78.7	71.7	77.2	71.8	91.1	81.5	64.4	62.7	87.2		83.7
2008	79.2	69.2	75.2	72.3	90.2	85.8	76.3	73.7	89.1	91	83.9

表3 一貫教育校別教職員の健診受診率の推移 (%)

年 度	幼 稚 舎	普 通 部	中 等 部	湘 南 藤 沢 中等部高等部	高 等 学 校	志 木 高 等 学 校	女 子 高 等 学 校	計
2001	88.5	61.7	72	89.7	85.3	98.5	70.7	83
2002	90.6	90	66.7	87	91.9	98.4	92.1	89.1
2003	94.6	92.3	95.8	92.9	93.4	95	88.9	93.5
2004	98.2	100	91.8	88.2	97	98.3	92.3	95.4
2005	96.3	96.2	92	95.7	94.5	96.4	94.7	95.1
2006	98.1	92.7	95.8	91.5	95.2	98.2	92.1	94.8
2007	100	94.1	100	98.6	95.1	100	83.8	96.4
2008	94.6	100	97.9	98.7	97.5	98.2	92.3	97.3

表4 教職員健診に関する変更点

年 度	変更点
1996	血液検査結果のデジタル入力・出力
1997	身体計測、血圧、視力、聴力、検尿、心電図、胸部レントゲン結果のデジタル入力・出力
1997	結果返却時に責任者として判定医名の明示
1999	教職員の健診受診率の統計を開始
2001	一貫教育校別の教職員の健診受診率の統計を開始
2002	学部別の教員の健診受診率の統計を開始
2002	結果返却時に責任者として常任理事・保健管理センター所長名を記入
2003	結果返却時に就業区分“通常勤務可能”の明示
2005	結果返却時に責任者として常任理事・保健管理センター所長・各キャンパス産業医名を記入

績は不明であるが、2001年の83%から2008年まで増加し、97.3%の健診受診率となった。中でも普通部と女子高校では2001年から2002年にかけ、中等部では2002年から2003年にかけ、大きく増加した（表3）。

考 察

健診は総合的な健康状態の把握を目的として行われるが、職場においては労働者が作業に従事してよいか（就業の可否）、引き続き就業してよいか（適正配置）の判断にも用いられている。そのためには、健診受診率は100%が前提になる。

1998年以前

早くから学生健診のデータについてはデジタル化されていたが、教職員の健診データのデジタル化は遅れており、1997年に至りようやく結果報告書がデジタル化された（表4）。それ以前は健診受診率の詳細は明らかではない。

1998年から2002年

1999年から健診受診率の統計を開始した。その後、教職員の一貫教育校別の健診受診率の統計も開始され、それを掲載した慶應義塾大学保健管理センター年報は一貫教育校の各校長に配布され、また、一貫教育校の校長が委員を務める保健管理センター運営委員会で報告されるようになった。普通部と女子高校では2001年から2002年にかけ、中等部では2002年から2003年にかけ、健診受診率が大きく増加した。

大学の学部別の教員の健診受診率の統計も行われるようになったが、医学部を除き教員の健診受診率の大きな増加は見られていない。医学部には厚生省や東京都の医療監査が定期的であり、医師の健診受診率が低いことを指摘されたため、病院長が危機意識を持ち、健診受診を勧

めたことが関係している可能性がある。慶應義塾大学保健管理センター年報は各学部長にも配布されているが、学部長は保健管理センター運営委員会の委員ではない。2002年から学生の健診受診率は学部長の集まる大学評議会での報告事項とされているが、教職員の健診受診率は大学評議会の報告事項ではないことと関係している可能性がある。

2003年から2008年

労働安全衛生法では健診の事後措置として、就業場所、時間、作業の転換など就業上の措置をおこなうために、“就業区分”と医療のための“保健・医療区分”を行うことになっており、2003年から、“就業区分”を個人への結果返却時に明示することを開始した。その頃から、全般に健診受診率は上昇したが、女性で高く、職員で高い傾向は持続した。一貫教育校別の健診受診率の差はほとんどなくなったが、学部の教員の健診受診率の差は持続し、理系である医学部、理工学部、看護医療学部、薬学部で高い傾向が持続した。文系教員のさらなる健診受診率増加を目指すためには、大学生で行ったような受診行動の詳細な調査²⁾とそれに対するきめ細かな対応が必要であろう。

他大学における教職員の健診受診率

2007年あるいは2008年度の教職員健診受診率を年報、あるいは報告書で公表している、医学・看護・薬学系学部以外を持つ私立あるは国立大学の教員、職員の健診受診率を表5にまとめた。健診受診率にはばらつきが見られるものの80%前後が多かった³⁻¹⁴⁾。教員、職員別では職員の健診受診率が高かった。また、2001年からの健診受診率の推移示す大学があったが、70.3%から83.2%へと増加しており、今回の結果と一致していた。労働安全衛生法66条第5項では労働

表5 私立および国立大学の教職員健診受診率

大 学	対象者数	健診受診率 (%)			年 度
		教 員	職 員	教職員計	
1	1152	68.8	81.9	83.2	2008
2	370	71.7	96.8	80.5	2007
3	1186			69.3	2007
4	5163			90.8	2008
5	969			95.1	2007
6	882	66.5	96.6	80.7	2007
7	1147	83	93		2007
8	585	79	99.1	86.3	2007
9	5276			71.1	2007
10	3038	44.6	55.4	47.8	2008
11	2933			94.6	2007
12	2057			86.7	2008

者には健診を受ける医療機関を自分で選ぶ選択の自由はあるが、労働者の健診の受診義務（すなわち、健診を受けない自由はない）が規定されており¹⁵⁾、このことについての大学教職員における認知度が増加しているのかもしれない。

総 括

1. 1999年から2008年までの教職員の健診受診率の推移について検討した。
2. 慶應義塾大学教職員全体の健診受診率は1999年の76%から上昇し、2006年には92.5%に到達したが、それ以後、微減傾向にあった。
3. 男女別にみると女性の健診受診率は一貫して高かった。
4. 教職員別にみると職員の健診受診率は一貫して高かった。
5. 学部の教員の健診受診率は理系で高く、文系で低かった。
6. 文系教員のさらなる健診受診率増加を目指す必要がある。

文 献

- 1) 慶應義塾大学保健管理センター：保健管理センター業績、慶應義塾大学保健管理センターヤ報1999～2008

- 2) 齊藤郁夫、他：日吉と三田の学生の定期健診受診行動—2004年、2005年、2006年の比較—、慶應保健研究 25:1-3, 2007
- 3) 青山学院大学保健管理センター：報告書 XVII: 2009
- 4) 獨協大学保健センター：保健センター報告書（2007年4月～2008年3月） 22: 2008
- 5) 厚生館保健センター：同志社大学厚生館保健センター年報 2006年・2007年度 36: 2009
- 6) 広島大学保健管理センター：PHOENIX-HEALTH 平成20年度 51: 2009
- 7) 岩手大学保健管理センター：岩手大学保健管理センター紀要 35: 2009
- 8) 立教学院診療所：立教大学健康管理・診療年報 2007年度 2008
- 9) 立命館保健センター：Die Gesundheit 年報2005-2007年度 4: 2009
- 10) 成蹊学園健康支援センター：保健統計報告2007年度 2008
- 11) 東京大学保健センター：平成19年度健康管理概要 2008
- 12) 早稲田大学保健センター：保健センター報告書 2008年度 9: 2009
- 13) 山口大学保健管理センター：METASEQUOIA 平成18年・平成19年度 16: 2009
- 14) 山梨大学保健管理センター：山梨大学保健管理センター紀要 平成20年度 6: 2008
- 15) 前田正信ほか：各国の労働安全衛生関連法規・制度の国際比較、産衛誌 41: 45-53, 1999